

書くよろこび

私たち児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、
豊かな心を取りもどすため総力をあげて
「手書き文字の振興」に取り組んでいます。

日本の伝統文化芸術を守り育もう
すばらしい日本語の心を伝えよう
心を映す文字をより大切にしよう

書く楽しさ喜びを通して
健やかな心を養おう
美しい文字で潤いのある
豊かな人生を送ろう

我が国の書道の歴史は、古
代に中国から伝わり、日本の
風土の中で高度な芸術として
発展し、広く国民に親しまれ
てまいりました。同時に海外
でも広く愛好されています。

このようないくつかの書道を含めた文字・活字文化を振興するため、平成17年7月に「文字・活字文化振興法」が制定されました。

手書き文字が現代にいかに大切か

文部科学大臣 伊吹文明

紙の白と墨の黒の調和から生まれる優れた書の作品は、日本
本の心の素晴らしい表現として、雅な世界を連想させ、私たちの魂の奥深くにある何かを呼び覚ます魅力をもつています。

文部科学省では、この法律に基づき、知識、知恵の継承や向上、豊かな人間性の涵養の観点から、図書館の充実や学校教育での言語力の向上などの施策を総合的に進めています。

このようないくつかの書道を含めた文字・活字文化を尊重し、それらをはぐくんでいた我が国と郷土を愛する」ことを教育の目標として掲げています。これは文字

また、昨年12月に成立した改正教育基本法は、「伝統と文化を基盤とする伝統文化に親しむことによってこそ身に付けられる資質であり、書道など日本社会に受け継がれてきた優れた文化、伝統を生き残り、国民の品性を育み、品格ある日本を目指した施策を進めていきたいと私は考えています。

社団法人日本書芸院では、「書」の本質的研究を通じた、我が国の文化の継承・発展のための活動、書道展の開催や広報紙の発行等の書の普及・啓蒙や後進の育成、日中書法交流展等の積極的な国際交流を行っていると伺っています。

今後とも「手書き文字にこそ魂が宿る」という信念を全国に向け広くアピールしていただければと思います。そして、「手書き文字の振興」を通じてより多くの人が書道に親しみ、書くよろこびや楽しさが未来に伝わることを願っています。

【国際交流】 文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

【文字・活字文化の日】 国民の関心と理解を深めるため、十月二十七日を文字・活字文化の日とする。



文字・活字文化振興法 骨子

【目的】
文字・活字文化の振興策を推進し、知的で心豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。

【基本理念】

国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵澤を受ける環境を整備する。国語が日本文化の基盤であることに配慮する。学校では「言語力」をはぐくむ。

【責務】

国や地方公共団体は文字・活字文化の振興策を策定し、実施する責務がある。

【地域での振興】

市町村は公立図書館を設置する。国や地方公共団体は司書の充実など人的体制を整備し、資料の充実を図る。学校図書館を開放する。

座談会

手書き文字が今の時代にいかに大切か

日時／平成19年2月11日（日）午前11時より 場所／京都ホテルオークラグループ「栗田山荘」



右より 甲斐 瞳朗先生、奥田 幹生先生、長尾 真先生、永樂 善五郎先生 司会 真神 巍堂

出席者（50音順）

永樂 善五郎先生
千家十職 永樂家17代目

奥田 幹生先生
元文部大臣

甲斐 瞳朗先生
京都橘大学教授、前国立国語研究所所長

長尾 真先生
国立国会図書館館長、前京都大学総長、
前情報通信研究機構理事長

司会 真神 巍堂
日本書芸院常務理事

司会 本日は、何かとお忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。

私たち日本書芸院は、書道を研究する団体ですが、書写・書道の振興を願つて、昨年度はじめて広報紙をつくり、全国の方々に配布させて頂きました。

今回、第2号の発行にあたり、表記のようなテーマで座談会を計画させて頂きました。

本日ご出席頂いた奥田

先生は政治家としてご活躍になつた方ですし、長尾先生は工学をご専門ですし、甲斐先生は文学や国語学、永樂さんは芸術のほうということで、四人の先生方は全く分野が違いますので、それぞれの立場からご自由にお話し頂いたらよいと思つております。

長尾 私は、コンピューターをやっておりまして、ワープロをつくる最初の頃からずっと関わってきました。最近は世の中にいたるところに手書きというものは全部違

うんですね。その中から

コンとかというのは、今

普及して、みんなワープロを使うことになつて大いに使っています。そうすると、逆にみんな文字については「読めるけれども、書けなくなってしまう」というような嘆きが結構あるみたいで、その辺、現代武器といふのはいいことはいいんですけど、なかなか難しい点を含んで

いるという気がしています。

司会 長尾先生は、手書きの数字で書かれた郵便番号をコンピュータで解析するシステムを開発されたとお聞きしておりますが…。

長尾 まあそうです。だから、文明が発達するのは、ある意味ではいい立場とどうか、そんな感じですね。

司会 奥田先生、一昨年

は「三種の遊具」ですね。

これは、ここ十年、十五

年くらいでたいへん広が

りましたね。今、先生が

おっしゃったように、手

書きであつたら、書いた

かと思いますね。しかし、

これも活字にしちゃうと、

味気ないです（笑）。

司会 そういう意味で

私は機械で読み取るとな

るけども、ワープロは

さっぱり心が伝わりませ

んね。何か味気ない世の

中（笑）、そういう感じが、

我々にはしますね。

司会 奥田先生、一昨年

ですが、「文字・活字文

化振興法」というのが全

会一致で決まりましたね。

奥田 一昨年のたしか

夏頃だったと思うんです

が、昔、学校の先生をし

ていた肥田美代子さんが

会長になりまして、一瀉

千里にその法案が可決さ

れました。これは超党派

の議員の賛成があり、全

会一致でした。

それを受けて、それで

は、今の文部科学省がそ

れなりの手だてをしてい



手書きでは活潑になつたが、キーボード入力ではほとんど動かなかつた」というような、長尾先生に怒られそうな記事が出ていました(笑)。

長尾 いやいや、全くそうだと思いますよ。パソコンというのは本質的に、コンピュータの中にあるものを引っ張り出してくるという仕事だけをやっています。極端にいえば、例えば、打ち込むことによつて漢字が引っ張り出されてくるとか、何かやることによって情報が出てくるとか、要するに知

われています。

それともう一つは、音声、朗読というのもも過去の言語文化の継承という点で大切です。そういうことで、昔からずっと続いてきたいいろいろな言語芸術についても、もつと学習したほうがよいという方향で進んでおります。

字を書くことは、頭でモノを創造すること——長尾 真先生

司会

司会

司会

司会

司会

司会

手書きでは活潑になつたが、その意味で本質的に違っています。現在の人間というのは、受け止めているか、新聞を読むとかテレビを観るとかあまりにも受容一辺倒の世界になつてきていたわけですね。

それに対して、やはり人間の頭の半分は、つくり出していくといふか、行動していくといふか、行動していかないといふ、それがどう稽古しているわけではないんですけど、永樂 字でも絵でも似たようなところがあるて、まあ字のほうは私はそれほど稽古しているわけではありませんで、手が動きやすくなるけれども、そういう要素で活性化しないといけないので、その意味で、習字とか字を書くというのは非常にいかんじやないかなと思う

「今まで描けていたから」といつて、普段何もしないでいると、手が動きやすくなっています。それが、今今まで描けていたから」といつて、普段何もしないでいると、今度は自分が思っていることと手の動きとがなかなか合わない。で、やはり常に手を動かしていると、それなりにちょっとしたスケッチにしても描けるようになりますね。

一方、学校教育としては、学習指導要領ではそういう時間があつても、現状は必ずしもそのとおりいっていないようで、最近いろいろ強化の問題があります。書道、音楽、工芸とかいろんな分野で、医学関係とか体育関係とかいろいろな先生が集まつて、幅広くデータをとつたりしているのを聞きましても、特に中学校なんかの現場

音楽の場合は、前頭葉ですかね、それだけが非常に活潑になる。ところが、斐先生はどんなお考えでしょうか。

甲斐 こちらに文部科学省の元大臣がおいでです。國語は、とにかく増やしてほしい、と。これは前の文化審議のもので(笑)、ものが言いにくいのですが、やはりいるんです。國語は、とその大きさは誰もが認められるけれども、そういうものは数字としてなかなか出にくいで、説得力がなかつたようですが、そのういうものが幾らか明らかになります。それが、

甲斐 会の「これから時代に求められる国語力の育成」の会合で、藤原正彦先生などもいろいろ言って頂いて、國語については重視され増やす方向にあります。しかし、増やしたからといって、時間の取り合いをやつて、た音楽や美術・図工を減らせとは思ってないんです。やはり、日本

長尾 やはり手を動かすことは大事だと思つて…。そういう意味では、永樂さんがやつておられたことなんか、非常にうらやましい限りです(笑)。

普通、簡単に「情操教育」とかと言いますけど、その大きさは誰もが認められるけれども、そういうものは数字としてなかなか出にくいで、説得力がなかつたようですが、そのういうものが幾らか明らかになります。それが、「今まで描けていたから」といつて、普段何もしないでいると、今度は自分が思っていることと手の動きとがなかなか合わない。で、やはり常に手を動かしていると、それなりにちょっとしたスケッチにしても描けるようになりますね。

一方、学校教育としては、学習指導要領ではそういうことでは、ある大学で、科研費をもらつてその研究をしているところがあります。書道、音楽、工芸とかいろんな分野で、医学関係とか体育関係とかいろいろな先生が集まつて、幅広くデータをとつたりしているのを聞きましても、特に中学校なんかの現場

長尾 先生は特に、教授は、大学生を相手に実験をした。紙と鉛筆を使って書いたときとキーボードを使って書いたときの脳の働きを比較したのだ。結果は歴然で、脳の中枢と頭を創造するとともいえる前頭前野が

それに對して、人間が手で作文するとか字を書くとかいうのは、やはり頭を創造するとともいえる前頭前野が

奥田 いやア、立派な字を書かれますね。先生の作品を見せてもらつたことがあります。すごいねエ。これが工芸部の先

日本書芸院



人のこれから広い意味の人間性のためには、芸術教科というものは大切だと思っております。それから、書写に関してもは、前の学習指導要領の改訂のときに、国語は小学校一年から中学校三年まですべての学年で一時間削られました。削られたけれども、実は書写に関しては、先ほど奥田先生のお話にもありましたが、一時間も削つていません。それで私どもは安心していましたけど、さつきおっしゃったように、現実の学校では、いわゆる世界史の必修漏れと同じように（笑）、書写、特に毛筆の書写のところが大分手抜きになっていた。これはやはり私は問題だと思うんです。

教育というのは、目先の得点の問題ではなくて、一人ひとりの一生の問題にかかわるところです。全国の教育現場にもう一度指示を出すべきだと思つております。

今度幸いにも、今の報告によれば、国語の時間は増えそうなんですね。もう一度幾らか復活しそうだということです。そ

の結果、漢字の学習、それは、前の中学校一年から中学校三年までの学年で一時間削られました。削られたけれども、実は書写に関しては、この二つのところに力を入れていただければ年まですべての学年で一時間削られました。削られたけれども、実は書写に関しては、先ほど奥田先生のお話にもありました。それで私どもは安心していましたけど、さつきおっしゃったように、現実の学校では、いわゆる世界史の必修漏れと同じように（笑）、書写、特に毛筆の書写のところが大分手抜きになっていた。これはやはり私は問題だと思うんです。

教育というのは、目先の得点の問題ではなくて、一人ひとりの一生の問題にかかわるところです。全国の教育現場にもう一度指示を出すべきだと思つております。

司会 いやア、ありがたことです。もう一つは、「週休2日制」になつたことでも、時間の取り合いのところで弱くなるのではないかと思います。週休二日制の一番最初に始まつたときの文部大臣は確かに奥田先生でしたね：（笑）。

奥田 私は平成八年一月、橋本第一次内閣のときに文部大臣を仰せつかったんです。そのときの中央教育審議会の会長が東大総長の有馬さんでしたが、七月頃答申を頂いたたわけです。それが「週休二日制に踏み切りなさい」ということになつていたのです。

司会 いやア、ありがたことです。もう一つは、「週休2日制」になつたことでも、時間の取り合いのところで弱くなるのではないかと思います。週休二日制の一番最初に始まつたときの文部大臣は確かに奥田先生でしたね：（笑）。

司会 「ただ、条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

条件があります」といい、当時は第二週、第四週の土曜日は休んでいましたから、「学習指導要領も、これまでの

日本の漢字・文字にある——甲斐睦朗先生



京都などは特に、「文化のまち」ですから、書道教室とか、茶道教室とか、華道の教室とか、小さい上品な看板がちよいちは多いが、それでも、なるべく小学校の低学年の間に学校で教えていくと、人生の中で歳があがると、何か、継ぎ接ぎの手当だけを議論をしてしまいます。もう少し根本からみんなやり直す。皆そこに目覚めないといけませんよね。

ただ、学校の教育力が十分でないことは否定しません。例えば、マスクミでも全国の書道展とか、

ああいうのは非常にうれしいですね。私は、やはり日本文化の底力は、捨てたものじやないと思います。

永樂 今聞いたたら、書道をなさつている人口とお茶を習っている人口は、ちょっと似たくらいの数字だと思います。

今、特に若い人なんかでも、この頃特にお茶に興味を持っている男の人はも増えてきているようですね。しかし、全体的な数字だと思つてます。

私は自身は教育大で指導していますが、教員養成の時間が少ないんですね。ですから、現場へ行つた人が、教える自信がないんです。どうしても指導力がないから、ちょっと逃げているところがあるかもしれません。そこへもつて、パーソンとかイ

京都などは特に、「文化のまち」ですから、書道教室とか、茶道教室とか、華道の教室とか、小さい上品な看板がちよいちは多いが、それでも、なるべく小学校の低学年の間に学校で教えていくと、人生の中で歳があがると、何か、継ぎ接ぎの手当だけを議論をしてしまいます。もう少し根本からみんなやり直す。皆そこに目覚めないといけませんよね。

ただ、学校の教育力が十分でないことは否定しません。例えば、マスクミでも全国の書道展とか、

ああいうのは非常にうれしいですね。私は、やはり日本文化の底力は、捨てたものじやないと思います。

司会 私どもが、例えば京都などは特に、「文化のまち」ですから、書道教室とか、茶道教室とか、華道の教室とか、小さい上品な看板がちよいちは多いが、それでも、なるべく小学校の低学年の間に学校で教えていくと、人生の中で歳があがると、何か、継ぎ接ぎの手当だけを議論をしてしまいます。もう少し根本からみんなやり直す。皆そこに目覚めないといけませんよね。

ただ、学校の教育力が十分でないことは否定しません。例えば、マスクミでも全国の書道展とか、

ああいうのは非常にうれしいですね。私は、やはり日本文化の底力は、捨てたものじやないと思います。

永樂 今聞いたたら、書道をなさつている人口とお茶を習っている人口は、ちょっと似たくらいの数字だと思います。

今、特に若い人なんかでも、この頃特にお茶に興味を持っている男の人はも増えてきているようですね。しかし、全体的な数字だと思つてます。

私は自身は教育大で指導していますが、教員養成の時間が少ないんですね。ですから、現場へ行つた人が、教える自信がないんです。どうしても指

しは学習指導要領に沿つてやつてくれるのかもわかりません。

小学校ではわりにやつてあるみたいですが、中学校になると、その内容も難しくなることもあります。

最初だけに終わつてしまつて、ちょっと手に負えないと、教科書だけを買っておくとか、書けを買つておくとか、書き始めだけに終わつてしまつて、まい易いようです。

今、先生方にお聞きしましたが、様々な分野の先生方がおられるけれども、決して「どうでもよい」というようにお考えの方は誰もおられないし、もつと幅広くいろいろ聞いてみても、「要らない」という人はいないと思いま

ます。実際に学校の現場では、それが思うようにいっていないといふところが、難しい問題です。
甲斐 学習塾というのがあつて、これが今、大変大きな立場になつています。学習塾は、話題に出ているような書道とかそろばんとかいった伝統的なものと、純粹に受験対策のものとがつて、後者の受験対策のほうが大きくなつていて。それに對して、芸術的な部分と

か、そろばんなどの基礎的な部分というのが小さくしほんでいるところがある。そして、受験の学習塾が逆に今は学校教育を指導しようというよう

な状態です。
私は 「人間教育」だと思っています。受験もあるし、学力も必要ですが、まい易いようです。

小学校、中学校、高等学校では人間性の多様な面の進捗を図ることが大切だとと思うんですが、非常に残念なことに、例えば何か必修漏れがあると、新聞が塾の何とか部長にコメントを求めることがある。だから、私は、その新聞社に手紙を書いたことがあります。学校教育については、学校教育に携わる人、あるいは教育系大学の教授にコメントを求めるのがよいと思いま

すが、根拠は何ですか」という指示語の解答ではなくて、その書かれている内容について、「あなたはどうちらの意見が良いと思いま

すか、根拠は何ですか」という意見を問われる。

日本の中学生は一般的にのほうが削られやすいです。もうちょっと点数の中に入れる必要があるんじゃないでしょうかね。

甲斐 読み書きの「読み」でも、最近、「ピサ（PISA／国際学力到達度調査）の読解力」という問題があるんです。OECDの試験で、日本が世界の各国と同時に、十五歳の少年、ちょうど中学校三年生が受ける試験があります。これが二〇〇〇年のときに世界の八位で、まあ一位とちょっと出することをやらないと、ダメですね。

長尾 そうですね。教育の基本的な考え方をきちっと出すことをやらないと、ダメですね。

奥田 ちょっと新聞に書かれて、ウロウロする。これは三年ごとに

か、そろばんなどの基礎的な部分というのが小さくしほんでいるところが

ある。そして、受験の学習塾が逆に今は学校教育を指導しようというよう

な状態です。

長尾 今は知識偏重です。とにかく、どんどん知識を取り入れて覚える

出ているような書道塾な

どには、本当に子どもた

りですよね。それに対し

奥田 しかし、あれだけマスコミから「学力が落ちた」というように批判されると、それはやはり何とかそれを取り戻そうとする気持ちはあります。個人個人が積み重ねると、そこまでいいんですけど、もうひとつそ

特に今、公立と私学との

とか、そんなことばつかのほうで…。

奥田 しかし、あれだけマスコミから「学力が落ちた」というように批判されると、それはやはり何とかそれを取り戻そうとする気持ちはあります。個人個人が積み重ねると、そこまでいいんですけど、もうひとつそ

特に今、公立と私学との

これはいけませんね。現場の先生はたまたまん

なところに落ちてしまつて、やはり何かこう、もつと全人的なことをやることですね。個人個人が積み重ねると、そこまでいいんですけど、もうひとつそ

ういうことで、欧米式の思考・判断を試され

永樂 学力というものの中に書道とか図画工作とか、そういう情操的な面の分野のものは学力の総合点の中に入つてこない

長尾 今は知識偏重です。とにかく、どんどん知識を取り入れて覚える

とか、そんなことばつかのほうで…。

奥田 しかし、あれだけマスコミから「学力が落ちた」というように批判されると、それはやはり何とかそれを取り戻そうとする気持ちはあります。個人個人が積み重ねると、そこまでいいんですけど、もうひとつそ

ういうことで、欧米式の思考・判断を試され

て、やはり何かこう、もつと全般的なことをやることですね。個人個人が積み重ねると、そこまでいいんですけど、もうひとつそ

ういうことで、欧米式の思考・判断を試され



「読み書き」は、人間の情の分野での教育でますます大切になつてくる——永樂 善五郎先生

差というのも非常に大きくなつてきております。そういう中で、先生がおつしやるような、いわゆる人間の「骨太の教育」、これをおつしたらよいかといふのは、私は、これが一番根本で、大事なことだと思っています。教育再生会議あたりはそれにまづ絞つて議論をすべきではないかなどと思つてはなかろうかなと思うんですね。

長尾 そうです。教育の基本的な考え方をきちっと出すことをやらないと、ダメですね。

奥田 それから、小学生でも中学生でも書いても字は下手やなア（笑）、本当に。ましてや、論理的に思うことを作文にまとめるということ也非常に苦手ですよね。だから、

これはいいんですけど、広げざれているけど、広い意味の上位群だったんも、ピサの試験ではAかBかなんです。黛イバー私は、もつともつと作文

でも、先生が児童に「きのうの運動会について感じたことを書きなさい」と問題をボーンと投げて、書かせてみる。それで、「ここが間違うとするよ」とか、「ここはこういうふうに書いたほうがいいんじゃないの」とか…。

個別指導も、この頃は学級の人数も少ないので、やつてやれんことはありませんし、そういう時間をもつともっと増やす必要があるんじゃないでしょうかね。

司会 昔と違つて今は、学習よりも他の学級運営みたいなものに四苦八苦していますね。

奥田 そうです。それに時間がとられるんですよ。司会 卒業生が学校へ来たりしたら、「大変だからもう辞めたい」というのが結構ありますね。

奥田 今、保護者である若い夫婦の離婚が、厚生労働省の統計によりますと、二分二十六秒に一組が離婚していると、いうんですね。だから、父子家庭・母子家庭の子どもも非常に増えていますし、母親が別居の家庭の子どももいる。そ

うことで、学校で授業参觀をやっても、保護者の間でなかなか意見が合はないから、先生が頭を抱えるというんです。そういう心配事もあるんだけ、」「ここはこういう辛抱とか、忍耐とか、じやないの」とか…。

そういうことがまだまだ今、教育には足りないんじゃないですか。特に、ここ二十代、三十代の方にはね。それが子どもの教育にも影響していると

長尾 習字なんか一生懸命やらすと、少しは忍耐力が出てくるんじゃないですかね（笑）。

司会 いや、何か、読書というのをどこかで読んだことがあるんですけど…。

甲斐 読書は面白いですからね。読書の喜び、楽しみを一度覚えてしまつたら、次へ進んでいくん

奥田 本当にその通りです。私は、読書は自らも左も一緒です。例えば、「骨」という字なども、字体まで違つて、中國のほうが一画少なくなることがあります。とにかく合理的な形となっています。とにかく合理的な形となっています。私はしかし、日本は日本で考えないといけないと

甲斐 現在の中国の文字の筆順は日本と少し違つて、能率を尊ぶんですね。

司会 うなづかずして、そのあたりについては…。

甲斐 私もそれは一二十年前からお願いしています。例えば昔、丸文文字というのがはやつた。あれは横書きの結果なんですね。横書きのための筆順とか美しい文字のあり方というのは、やはり

奥田 本当に育てられてきた文字が、現代の日本は線を引こう、日本は日本普及になっていきます。

甲斐 現在の中国の文字の筆順は日本と少し違つて、能率を尊ぶんですね。

司会 うなづかずして、そのあたりについては…。

甲斐 私もそれは一二十年前からお願いしています。とにかく合理的な形となっています。私はしかし、日本は日本で考えないといけないと

甲斐 現在の中国の文字の筆順は日本と少し違つて、能率を尊ぶんですね。

司会 うなづかずして、そのあたりについては…。

甲斐 私もそれは一二十年前からお願いしています。とにかく合理的な形となっています。私はしかし、日本は日本で考えないといけないと

甲斐 現在の中国の文字の筆順は日本と少し違つて、能率を尊ぶんですね。

司会 うなづかずして、そのあたりについては…。



から、パソコンで打つんが違う。こういうことになつていいことが、何か心残りです。教えていかないといけない。それが国語の授業だと思つてゐるんです。

そういう点で、書写・書道は、やはりどうして書くんだという、その指導が書写の内容の主たるところになつてしまい、書くんだと、その立派なんです。ところが、全体がダメ。姓名の四字のバランスが悪いというのがあります（笑）。俳句を一句、あるいは四〇〇字の文章をどう整えて書くとよいかということ、これが実は小学校からの硬筆の書き方の目標なんいろいろなところで、教師の話し方教室を夏休みや冬休みに開設しているんですね。そうすると、何千人も集まる。そこで話し方を指導する。それと同じように、書き方教室をやつていただいたら。そのかわり、その目標として、「この講義・講座を受けられれば、こういうところで力がつきますよ」という目安を最初から提示しておけば、こういった横書きへ随分変わつていては…。

甲斐 私もそれは一二十年前からお願いしています。例えば昔、丸文文字というのがはやつた。あれは横書きの結果なんですね。横書きのための筆順とか美しい文字のあり方というのは、やはり

奥田 本当に育てられてきた文字が、現代の日本は線を引こう、日本は日本普及になつていきます。

甲斐 うなづかずして、そのあたりについては…。

奥田 本当に育てられてきた文字が、現代の日本は線を引こう、日本は日本普及になつていきました。



文字・活字文化の日 手書き文字万歳

(社)日本書芸院 読売新聞社 (社)日本作詩家協会

第2回 手書き文字ばんざい！

文字に親しむイベント



文字・活字文化振興法が平成17年7月に成立、「文字・活字文化の日」が制定されたことを記念して、本院では「手書き文字ばんざい！」のイベントを開催。大げさな反響を呼び、手書き文字の一層の普及を願つて開催したのが、今回のイベント。

高木厚人、福光幽石本院常務理事が、子どもた

平成18年10月9日(体育の日)、大阪・中之島の大阪国際会議場で「第2回 手書き文字ばんざい！」が開催された。文字に親しむイベントとして、10月27日の「文字・活字文化の日」に先がけて実施されたもので、親子連れを中心に約320人が参加。色紙へ文字を書いたり、落書きコーナーに自由に書き込むなどで楽しんだ。

ちに向けて、空海と良寛の書にまつわるエピソードをスクリーンを使つた紙芝居形式でわかりやすく紹介した。

続いて「第1回全日本小学生・中学生書道紙上

展」「第11回全日本高校・大学生書道展」の成績優秀者12人による揮ごうを実施。筆を運ぶ様子が場

内のスクリーンに大きく

映し出され、参加者は文

字が書き上がるのを静かに見守った。

今回主催者として加わった日本作詩家協会を代表して、たかたかし理事長による「作詞家は漢字と

ひらがなを使い分けて歌

の心を文字で表していくま

す」とのあいさつ、もず

唱平副理事長の「言葉を

生かすのにも手書き文字

が一番」とのお話、民謡

歌手の成世昌平さんによ

る三味線と奥様の鼓によ

る演奏とイベントは続き、

いよいよ参加者全員が文

字に親しむコーナーへと

進んだ。

「水」「山」「月」「花」

「樹」「陽」「風」「空」など自然に関する12文字から好きな文字を選び、お

手本を見ながらいねい

に書写。また、短冊には

「字が上手になりますよ

うに」「お金持ちになり

ますように」など、それ

ぞの願い事を思い思

いの画材で書き記し、でき

上がった作品は会場内の

大型ボードに展示しイベ

ントを盛り上げた。また、

お土産用のうちわにも好

きな文字を書き、「手書

き文字ばんざい」の朱印

を押して完成させたり、

大型パネルを使つた落書

コーナーに自由に文字

や絵を書くなど、文字を

書く楽しさを満喫した様

子だった。

イベントのクライマッ

クスは、栗原蘆水本院理

事長による大作揮ごう。

横1.45メートル×

縦2.86メートル×

で心を伝える」の文字を

鮮やかな筆さばきで書き

上げると、会場内からは歓声と拍手が響いた。

参加者からは「楽しかつ

た」「よかつた」「来年

も来たい」と好評で、第

2回の文字に親しむイベ

ントは終了。次回の開催



が期待されている。





おしゃうじわくわく

手書きの文字
書写・書道ってすばらしい
れいに美しく
字を書こう
の美しさは
文化のバロメーター



参加者の声 (アンケートから、順不同・敬称略)

「一字がきれいに書いてよかったです。お絵かきもできて、すごく楽しかった」
 (生駒小1年 日下部瞳)

「花と星と人を書いた。ひじを上げて書くように教えてもらったので、力強く書けた」
 (雲雀丘学園小2年 山本悠人)

「うちわや色紙、落書きコノナードなど、いろんなところに書いて楽しかった。大学のお兄さん、お姉さんの字がすごかった」
 (上牧小3年 山下鉢華)

「みんなの字から心が伝わった。昔、字がうまかった人の話を聞いて、もっと調べたくなった。また参加したい」
 (玉造小6年 竹井美優)

「一つの字でもいろんな種類がある、それを書いてよかったです。うちわに筆で書くときは少し緊張したけど、きれいに書けた」
 (鶴橋小6年 正木智久)

「普段は習字はあんまりしないけど、落書きコーナーや演奏があつて楽しくできた」
 (郡家小6年 堀祐貴)

「普段は習字はあんまりしないけど、落書きコーナーや演奏があつて楽しくできた」
 (同志社女子中2年 田中景子)

「楽しい書け、ほかの人の作品が見られてよかったです。手書き文字の素晴らしさを実感することができた」
 (大倉晴幸 72歳)

「いい体験ができ、面白かった。うまい人もうまくない人も気軽に参加できるからいい」
 (川西南中2年 前田英利)

「手紙を書かなくなり、多くの伝達はメールや電話で済んでしまう。あえて手書きを選び、心を伝えるのは大変だが、その良さを思い出すきっかけになればいい」
 (光武朋子 42歳)

「自由にのびのびと表現できる力をたくわえてきた、素晴らしい若者たちに拍手を送りたい。書いたものと新しい空間が生まれた」
 (寺本久子 56歳)

「学生の書きぶりに感心した。読み、書き、そろばんが大事であることはどんな時代になっても変わらない。書くことの楽しさを実感できた」

「普段の生活の中では筆を持つて書くことはなかなかない。今回は穏やかに和やかに、温かい時を過ごすことができた」
 (石井里可子 21歳)

「普段の生活の中では筆を持って書くことはなかなかない。今日は穏やかに和やかに、温かい時を過ごすことができた」
 (中山和子 38歳)

「手紙を書かなくなり、多くの伝達はメールや電話で済んでしまう。あえて手書きを選び、心を伝えるのは大変だが、その良さを思い出すきっかけになればいい」
 (光武朋子 42歳)

「学生の書きぶりに感心した。読み、書き、そろばんが大事であることはどんな時代になっても変わらない。書くことの楽しさを実感できた」

第11回 全日本高校・大学生書道展

応募過去最高1万2227点 作品一段と充実

本院と読売新聞社が、日本が世界に誇る「書」芸術の継承と発展を目的に創設した「全日本高校・大学生書道展」も、平成18年で11回を数えた。

応募総数は前年の第10回を772点上回り、過去最高の1万2227点という盛り上がりを見せ、次代を担う高校・大学生の書道のグランプリが決まった。漢字、かな、調和体（漢字・かな交じり文）、篆刻の4部門への応募作品の中から、最高賞にあたる全日本高校・大学生書道展大賞51点、同展賞335点、優秀賞945点が選ばれた。

審査員の栗原蘆水本院理事長は「年々、点数とともにレベルが上がっている。今年は特に高校生の作品の水準が高く、頼もしく思った」とコメント。受賞作品は8月22日から27日まで大阪市立美術館で展示され、授賞式は8月27日に大阪国際交流センターにて行われた。



審査結果

◆個人賞

全日本高校・大学生書道展大賞	五一点
全日本高校・大学生書道展賞	三三五点
優秀賞	九四五点
準優秀作品	二二一九三点
優良作品	八七〇三点

◆団体賞

高等学校の部

最優秀校 大分高等学校(大分)七年連続七回目

優秀校 埼玉県立松山女子高等学校(埼玉)

3位 広島県立福山誠之館高等学校(広島)

4位 東福岡高等学校(福岡)

5位 明誠学院高等学校(岡山)

6位 東京学館新潟高等学校(新潟)

7位 清水ヶ丘高等学校(広島)

8位 奈良県立桜井高等学校(奈良)

9位 鹿児島県立伊集院高等学校(鹿児島)

10位 沖縄県立宮古高等学校(沖縄)

11位 京都光華高等学校(京都)

◆出品点数

◆審査

◆出品点数
(種別)
第一種
第二種
第三種

一二、二三七点

三、九六二点

(日展・読売サイズ)

七、八一八点(半切)

四四七点(篆刻)

マイドームおおさか
平成十八年七月二十八日(金)
一階

◆審査員
読売書法会 常任総務 新井 光風
本院副理事長 井茂 圭洞
本院副理事長 杉迫 柏樹
本院理事長 栗原 蘆水
本院副理事長 黒田 賢一
本院副理事長 樽本 蕉仙
本院副理事長 吉川 葦居
本院副理事長 刘俊甫
本院副理事長 岸本 弘一
本院副理事長 蔡居
読売書法会 常任理事 岩手
本院副理事長 神田 葵
本院副理事長 岸本 弘一
本院副理事長 読売新聞東京本社執行役員事業局長 読売新聞大阪本社取締役事業局長
読売新聞東京本社執行役員事業局長 読売新聞大阪本社取締役事業局長
讀元新聞東京本社執行役員事業局長 読売新聞大阪本社取締役事業局長

◆大学の部

最優秀校 京都橘大学(京都)四年連続四回目

優秀校 奈良教育大学(奈良)

位 大東文化大学(東京)

位 四国大学(徳島)

位 京都教育大学(京都)

位 岐阜女子大学(岐阜)

位 国立岩手大学(岩手)

位 中京大学(愛知)

位 国立静岡大学(静岡)

位 花園大学(京都)

第1回 全日本小学生・中学生書道紙上展



平成18年、本院は創立60周年を迎えた。これを記念して、読売新聞社との共催で「全日本小学生・中学生書道紙上展」を創設。日本が世界に誇る伝統文化である「書」芸術の継承と発展とともに、小学生・中学生の書写書道の技術向上を図り、書道を通してより豊かな人間形成に役立てる目的とした展覧会。

第1回展には、全国から2万7056点という予想を上回る応募があり、厳正なる審査を実施。各学年のベスト100を選考した。

第2回展にも、数多くの素晴らしい作品が集ることを期待する。



- ◆選考内容及び賞
 - 一、各学年の優秀作品（ベスト100）を選考し、認定証（左写真）を授与
 - 二、出品者全員に出品証として図書カードを贈った。

二〇〇六年十月二十二日（日）読売新聞紙上及び本院ホームページにて発表。各代表者に成績通知を郵送。

◆審査	
会場	日時
OMMビル2階	平成十八年九月十九日（火）
会議室	
本院 理事長	栗原 蘆水
副理事長	井茂 圭洞
ク	杭迫
ク	吉川
ク	黒田
ク	岸本 賢一
ク	柏樹
ク	蕉仙

読売新聞大阪本社取締役事業局長
二〇〇六年十月二十二日（日）読売新聞紙上及び本院
ホームページにて発表。各代表者に成績通知を郵送。

◆出品点数

（地域別）

北海道、東北地域

八〇〇点

小学一年生 一、三五八点

小学二年生 二、五八三点

小学三年生 三、六二六点

小学四年生 四、三二六点

小学五年生 四、三二〇点

小学六年生 四、三八八点

中学一年生 二、五九五点

中学二年生 二、〇八一点

中学三年生 一、七八九点

（学年別）

二七、〇五六点

小学一年生 一、三五八点

小学二年生 二、五八三点

小学三年生 三、六二六点

小学四年生 四、三二六点

小学五年生 四、三二〇点

小学六年生 四、三八八点

中学一年生 二、五九五点

中学二年生 二、〇八一点

中学三年生 一、七八九点

「全日本小学生・中学生書道紙上展」または、「全日本高校・大学生書道展」事務局

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7階 (社)日本書芸院内
電話 06-6945-4501 FAX 06-6945-4505 メールアドレス info@nihonshogein.or.jp

ホームページ <http://www.nihonshogein.or.jp/>

今年の作品応募要項や、昨年の詳しい結果報告は、ホームページをご覧ください。

